

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	短期大学の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジツン フクハラガクエン 学校法人 福原学園								
フリガナ大学の名称	キョウウウジ ヨシツクダガク 九州女子短期大学 (Kyushu Women's Junior College)								
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号								
大学の目的	<p>本学は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところにより広く深い知識と教養を授けると共に、職業教育に重点を置く高等教育を施し、良識と技能をそなえた心身共に健全な女性の育成を目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>学是「自律処行」の理念に立脚し、子ども健康学科は、乳幼児期から青年期に至る子どもの成長・発達の科学的理解およびその科学的理解に基づく心身の健やかな成長・発達を支援する専門的知識・技能について学び、確かな子ども理解と健康観に支えられた発達と健康維持・増進を支援する実践的力量を修得させることを教育研究上の目的とする。</p> <p>上述の教育研究上の目的に基づき、以下の人材を養成する。 他者との協調性、自己理解力、的確な判断力を培い、自主・自立の人材を養成する。</p> <p>子どもの心身の健やかな成長・発達について深い知識と高い技能を有し、子どもの成長・発達と健康の維持増進を支援する実践的力量をもった人材を養成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	子ども健康学科 「Department of Childhood Care and Education」 計	年	人	年次人	人	短期大学士(教育学)	平成23年4月 第1年次	福岡県北九州市 八幡西区 自由ヶ丘1番1号	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教育科(廃止) ・初等教育科(廃止) ・専攻科養護教育学専攻(廃止) <li style="padding-left: 20px;">養護教育科 (100) <li style="padding-left: 20px;">初等教育科 (100) <li style="padding-left: 20px;">専攻科養護教育学専攻 (20) 養護教育科、初等教育科は平成23年4月学生募集停止 専攻科養護教育学専攻は平成25年4月学生募集停止 								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	子ども健康学科	講義	演習	実験・実習	計				
		69科目	28科目	16科目	113科目	62単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	人	人	人	人	人	人	人	
	子ども健康学科	6 (6)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	1 (1)	36 (36)	
	計	6 (6)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	1 (1)	36 (36)	
既設	-	-	-	-	-	-	-		
該当なし	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
計	-	-	-	-	-	-	-		
合計	6 (6)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	1 (1)	36 (36)		

教員数については、延べ人数ではなく実数を記載している。

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		27 (27)	16 (16)	43 (43)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	1 (1)	3 (3)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	計		32 (32)	17 (17)	49 (49)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	九州女子大学と共用				
	校 舎 敷 地	0㎡	35,554.95㎡	0㎡	35,554.95㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	30,232.41㎡	0㎡	30,232.41㎡					
	小 計	0㎡	65,787.36㎡	0㎡	65,787.36㎡					
	そ の 他	0㎡	33,818.55㎡	0㎡	33,818.55㎡					
	合 計	0㎡	99,605.91㎡	0㎡	99,605.91㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	九州女子大学と共用				
		0㎡ (0㎡)	43,824.53㎡ 43,824.53㎡	0㎡ (0㎡)	43,824.53㎡ (43,824.53㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	35室	35室	82室	5室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		子ども健康学科		14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナルについては、九州女子大学と共用		
	子ども健康学科	40,632[6,591] (38,682[6,565])	151[51] (141[47])	5,429[2,210] (5,272[2,146])	1,785 (1,695)	3,508 (3,505)	18 (18)			
	計	40,632[6,591] (38,682[6,565])	151[51] (141[47])	5,429[2,210] (5,272[2,146])	1,785 (1,695)	3,508 (3,505)	18 (18)			
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		九州女子大学と共用		
		2,893.77㎡		384席		206,167				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
		5,503.46㎡		テ ニ ス コ ー ト 5 面 ゴ ル フ 練 習 場						
経 費 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 前 年 度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	図書（視聴覚資料含む）購入費には、電子ジャーナル、データベースの整備費を含む。
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円					
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円					
		図書購入費	3,419千円	3,419千円	3,419千円					
	設備購入費	570千円	570千円	570千円						
	学生1人当り納付金		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,110千円	900千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			学納金以外の収入は、手数料、補助金、資産運用収入を基本として計画している。							大学全体
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 九州女子大学									
	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
		年	人	年 次 人	人		倍			
	家政学部								北九州市八幡西区 自由ヶ丘1-1	
	人間生活学科	4	40	-	160	学士(家政学)	0.83	平成13年度		
	栄養学科	4	90	-	360	学士(家政学)	1.11	平成13年度		
人間科学部										
人間発達学科	4	190	-	190	学士(文学)	1.00	平成22年度			
人間文化学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成17年度	平成22年度より学生募集停止 (人間文化学科、人間発達学科)		
人間発達学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成17年度			

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子短期大学							平成23年度より学生募集停止予定(養護教育科、初等教育科) 平成25年度より学生募集停止予定(専攻科養護教育学専攻)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	養護教育科	年	人	年次	人	短期大学士(教育学)	0.62	昭和37年度		北九州市八幡西区 自由ヶ丘1-1
	初等教育科	2	100	-	200	短期大学士(教育学)	0.83	昭和41年度		
	専攻科養護教育学専攻	2	20	-	40	-	0.80	平成15年度		
	大学の名称	九州共立大学							平成21年度より学生募集停止(経済学科、経営学科) 平成20年度より学生募集停止(メディアコミュニケーション学科、情報学科、環境土木工学科、建築学科) 平成22年度より学生募集停止(機械生産システム工学専攻、電子情報工学専攻、都市システム工学専攻、環境システム工学専攻) 平成21年度より学生募集停止(機械電子システム工学専攻、環境・都市システム工学専攻)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	経済学部	年	人	年次	人					北九州市八幡西区 自由ヶ丘1-8
	経済・経営学科	4	400	-	800	学士(経済学)	0.78	平成21年度		
	経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	昭和40年度		
経営学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	昭和43年度			
工学部										
メディアコミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成17年度			
情報学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成17年度			
環境土木工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和42年度			
建築学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和42年度			
スポーツ学部										
スポーツ学科	4	250	-	1,000	学士(スポーツ学)	1.13	平成18年度			
工学研究科										
博士前期課程										
機械生産システム工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成13年度	北九州市八幡西区 自由ヶ丘1-8		
電子情報工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成13年度			
都市システム工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成13年度			
環境システム工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成13年度			
博士後期課程										
機械電子システム工学専攻	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成15年度	北九州市八幡西区 自由ヶ丘1-8		
環境・都市システム工学専攻	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成15年度			
附属施設の概要	附属図書館 昭和58年設置 2,893.77㎡									

教育課程等の概要																
(子ども健康学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	第1群 人文・社会・芸術科目	文章力をつける	1・2前・後		2										兼1	
		芸術を楽しむ	1前		2						1				兼1	
		歴史と文化	1後		2										兼2	
		日本国憲法	1前・後		2										兼1	
		暮らしと経済	1前		2										兼1	
		ジェンダーと社会	1後		2										兼1	
		生涯学習と社会教育	1前		2										兼1	
		同和教育	1・2後		2										兼1	
		異文化交流	1・2前・後		2					1						集中
	第2群 自然健康・環境科目	生涯スポーツ	1前・後		1										兼3	
		健康の科学	1前・後		2					1		2			兼1	オムバス
		心の科学	1後		2					1					兼1	
	第3群 外国語・情報科目	英語	1前		1										兼2	
英語		1後		1										兼2		
情報処理		1前		2					1					兼1		
第4群 キャリア支援科目	キャリアデザイン	1前	1						6	2	6					
	キャリアデザイン	1後	1						6	2	6					
	キャリアデザイン	2前	1						6	2	6					
	キャリアデザイン	2後	1						6	2	6					
	小計(21科目)	-	4	31	0	-	-	-	6	2	6	0	0	兼14	-	
専門教育科目	基礎科目	子ども学	1前	2					1							
		児童福祉	1前		2				1							
		乳幼児心理学	2後		2					1						
		発達心理学	1後		2				1	1						
		乳児保育	1前	2								1				
		保育原理	1前		2							1				
		保育原理	1後		2							1				
		社会福祉原論	2前		2				1							
		精神保健	1後	2					2							
		小児保健	1後		2							1				
		救急処置	2前		2				1			1				
		看護学	1前		2							1				
	小計(12科目)	-	6	18	0	-	-	3	1	3	0	0		-		

教 育 課 程 等 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
基幹科目 (発達支援領域)	教育課程・保育計画総論	1前		2														
	保育内容総論	1前		2														
	保育内容(人間関係)	2前		2					1								兼1	
	保育内容(環境)	2前		2														兼1
	保育内容(言葉)	2前		2														兼1
	保育内容(表現)	1後		2														兼1
	児童福祉	2後		2														兼1
	乳児保育	2後		2														兼1
	社会福祉援助技術	2後		2														兼1
	家族援助論	2後		2														兼1
	障害児保育	2後		2						1								兼1
	養護原理	1後		2														兼1
	養護内容	2前		2														兼1
	保育臨地実習	2前		1									3					集中
	保育実習・事前事後指導	2通		1									3					集中
	保育所実習	2前・後		2									3					集中
	保育所実習	2前・後		2									3					集中
	施設実習	2前・後		2						1								集中
	施設実習	2前・後		2						1								集中
	総合演習	2後		2									3					兼1
	国語科教育概論(書写を含む。)	1後		2														兼1
	算数科教育概論	1後		2						1								兼1
	生活科教育概論	1後		2														兼1
	音楽(器楽)	1前		2									1					兼5
	音楽(器楽)	1後		2									1					兼5
	音楽(声楽)	1後		2														兼1
	図画工作	1後		2									1					兼1
専門教育科目	小児栄養	1前		2														兼1
	小児保健	2前		2														兼1
	小児保健実習	2前		1									1					兼1
	幼児体育	1前		2									1					兼1
	体育	1後		2									1					兼1
	保育内容(健康)	2前		2									1					兼1
	保育相談論(かじりかを含む。)	2後		2									1	1				兼1
	学校保健	1前		2										1				兼1
	学校保健	1後		2										1				兼1
	学校保健実習	1後		1										1				兼1
	養護概説	1前		2										1				兼1
	養護概説	1後		2										1				兼1
	ヘルスカリカ	2前		2										1				兼1
	ヘルスカリカ演習	2後		1										1				兼1
	衛生学	1前		2														兼1
	公衆衛生学(予防医学を含む。)	2前		2														兼1
	栄養学(食品学を含む。)	2前		2														兼1
	生理・解剖学	1前		2									1					兼1
	微生物学(免疫学を含む。)	1後		2														兼1
	薬理学	1後		2										1				兼1
薬理学	2前		2										1				兼1	
看護学	2前		2										1				兼1	
看護学	2後		2										1				兼1	
看護学実習	1後		1										1	1			兼1	
看護学実習	2前		1										1	1			兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(子ども健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基幹科目 (健康支援領域)	臨床実習	2後		2					1		1				集中	
	臨床実習	2後		1					1		1				兼1 集中	
	医療秘書学	1後		2											兼1 集中	
	臨床医学	2前		2											兼1 集中	
	診療報酬請求実務	2後		2											兼1 集中	
	医療・社会保障論	2前		2											兼1 集中	
	医療情報学	2後		2											兼1 集中	
	小計(59科目)	-	0	110	0	-	-	-	5	2	6				兼21	-
	専門教育科目 教職関連科目	教職概論(幼稚園)	1前		2					1						
		教育原論(幼稚園)	1前		2					1						
		教育心理学(幼稚園)	1後		2						1					兼1
		教育行政学(幼稚園)	1後		2											
		教育方法・技術論	2前		2					1						
		教職実践演習(幼稚園)	2後		2							3				
		事前事後指導(幼稚園)	2通		1							3				
		教育実習	2前・後		2							3				集中
		教育実習	2前・後		2							3				集中
		教職概論(養護教諭)	1前		2											兼1
		教育原論(養護教諭)	1前		2					1						
		教育心理学(養護教諭)	1後		2					1						
		教育行政学(養護教諭)	1後		2											兼1
教育課程論		2前		2											兼1	
教科外教育の研究		2前		2					1							
教育方法学		1後		2					1							
生徒・進路指導論		2後		2							1					
教育相談論		2前		2							1					
教職実践演習(養護教諭)		2後		2					1	1						
事前事後指導(養護教諭)		2通		1					1	1						
養護実習		2前・後		3					1	1					集中	
小計(21科目)	-	0	41	0	-	-	-	3	2	4	0	0		兼2	-	
合計(113科目)		-	10	200	0	-	-	-	6	2	6	0	0		兼36	-
学位又は称号	短期大学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、保健衛生学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
教養教育科目のうち、第1群2単位以上、第2群3単位以上、第3群2単位以上、第4群4単位(必修)を修得、及び専門教育科目のうち、基礎科目8単位以上、基幹科目一領域から20単位以上を修得し、62単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限: 44単位(年間)) 成績優秀者等の履修上限については、上記単位を超えて履修を認める場合がある。						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要																	
(養護教育科 - 現行)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	人文・社会・芸術科目 第1群	文章力をつける		2											兼1	集中 集中 集中 集中	
		芸術を楽しむ	1前	2													兼1
		社会生活と倫理	1後	2													兼1
		社会福祉	1後	2													兼1
		歴史と文化	1後	2													兼1
		日本国憲法	1前	2													兼1
		政治と国際問題	1後	2													兼1
		暮らしと経済	1前	2													兼1
		情報文化論	1後	2													兼1
		ジェンダーと社会	1後	2													兼1
		生涯学習と社会教育	1前	2													兼1
		同和教育	1後	2													兼1
		異文化交流	1・2前・後	2						1							
		異文化交流	1・2前・後	2						1							
	ボランティア活動	1・2前・後	2												兼1		
	インターシップ・プログラム	1・2前・後	2												兼1		
	健康・自然科目 第2群	生涯キャリア	2後		1											兼1	拡バス
		健康の科学	1前		2					1	1					兼2	
		心の科学	2後		2					1							
		科学と人間	1前		2											兼1	
		環境と生命	1前		2											兼1	
		基礎生物学	1前		2											兼1	
	外国語・情報科目 第3群	英語A	1前		1											兼2	
		英語B	1後		1											兼2	
		フランス語A	1前		1											兼1	
		フランス語B	1後		1											兼1	
		中国語A	1前		1											兼1	
		中国語B	1後		1											兼1	
	教職関連科目	教職概論	1前		2											兼1	
		教育原論	1前		2					1							
		教育心理学	1前		2						1						
	専門教育科目	教育相談論	2前		2						1					兼2	
		教職総合演習	1後		2					1							
		小計(36科目)	-	0	64	0	-	-	1	1	2	0	0	兼24	-		
		学校保健	1前	2							1						
		養護概説	1前	2							1						
養護概説		1後	2							1					兼1		
学校保健実習		1後	1							1							
ALSカンゼリク		2前	2							1					兼1		
ALSカンゼリク 演習		2後	1							1					兼1		
精神保健		1前	2							1							
衛生学		1前	2							1					兼1		
公衆衛生学(予防医学を含む。)		1後	2							1					兼1		
栄養学(食品学を含む。)		1後	2							1					兼1		
生理・解剖学		1前	2						1								
生理・解剖学	1後	2						1									
微生物学(免疫学を含む。)	1後	2												兼1			
薬理学	1後	2						1									
薬理学	2前	2						1									
医科学実習	2後	1						1						兼3			
救急処置	1後	2								1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(養 護 教 育 科 - 現 行)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	看護学	1前	2								1					
	看護学	2前		2							1					
	看護学	2後		2												
	看護学実習	1後	1							1	1					兼1
	看護学実習	2前		1						1	1					兼1
	臨床医学	2前	2													兼1
	臨床実習	2後		2						1	2					集中
	臨床実習	2後		1						1	1					
	医療秘書学	1後		2												兼1
	医療・社会保障論	2前		2							1					
	診療報酬請求実務	2後		2												兼1
	医療情報学	2後		2												兼1
	高齢者・障害者福祉	2後		2								1				
	特別支援教育	1前		2								1				
	特別支援教育	1後		2								1				
	特別支援教育	2前		2								1				
	特別支援教育	2後		2								1				
	専門総合演習	2前		1						4	2	3				
専門総合演習	2後		1						4	2	3					
養護共用演習	2通	1							4	2	3					
卒業研究	2前・後		2						4	2	3					
留学生特別科目	日本語講座	1・2前		2												兼1
	日本語講座	1・2後		2												兼1
	日本語講座	1・2前		2												兼1
	日本語講座	1・2後		2												兼1
	日本語講座	1・2前		2												兼1
	日本語講座	1・2後		2												兼1
	日本事情	1・2前		2												兼1
	日本事情	1・2後		2												兼1
	日本社会	1・2前		2												兼1
日本文化	1・2後		2												兼1	
専任教職に関する科目	教育史	1後			2											兼1
	教育行政学	1後			2											兼1
	教育法規	1前			2											
	教育課程論	2前			2					1						
	教科外教育の研究	1前			2					1						
	教育方法学	1後			2					1						
	生徒・進路指導論	1後			2						1					
	事前事後指導(養護)	2通			1					1	1					
養護実習	2前・後			3					1	1					集中	
社会教育に関する科目	生涯学習・社会教育の指導者	1後			2											兼1
	社会教育計画の立案	2前			2											兼1
	社会教育施設の経営	2前			2											兼1
	青少年教育計画演習	2後			2											兼1
	社会教育演習	2前			2											兼1
	社会教育実習	2前			2											兼1
	小計(63科目)	-	24	63	30	-	-	-	-	4	2	3	0	0	兼17	-
合計(99科目)		-	24	127	30	-	-	-	4	2	3	0	0	兼37	-	
学位又は称号	短期大学士(教育学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
教養教育科目第1群6単位以上、第2群2単位以上、第3群2単位以上を含み、教養教育科目14単位以上、専門教育科目必修科目24単位、選択科目24単位以上を含む48単位以上を修得し、62単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要																
(初等教育科 - 現行)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	第1群 人文・社会・芸術科目	文章力をつける	1前・後	2						1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	集中 集中 集中 集中
		芸術を楽しむ	1前	2							1					
		社会生活と倫理	1後	2												
		社会福祉	1後	2												
		歴史と文化	1後	2						1						
		日本国憲法	1後	2												
		政治と国際問題	1後	2												
		暮らしと経済	1前	2												
		情報文化論	1後	2												
		ジェンダーと社会	1後	2						1						
		生涯学習と社会教育	1前	2							1					
	同和教育	1後	2													
	異文化交流	1・2前・後	2							1						
	異文化交流	1・2前・後	2							1						
	ボランティア活動	1・2前・後	2						1							
	インターシップ・プログラム	1・2前・後	2						1							
	第2群 健康・自然科目	生涯教育	1前	1								1			兼2 兼2 兼1 兼1 兼1	拡充
		健康の科学	1後	2								2				
		心の科学	1前・後	2								1				
		科学と人間	1前	2												
		環境と生命	1前	2												
		基礎生物学	1前	2							1					
	第3群 外国語・情報科目	英語A	1前	1											兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		英語B	1後	1												
		フランス語A	1前	1												
		フランス語B	1後	1												
		中国語A	1前	1												
	小計(31科目)		-	0	54	0				3	3	4	0	0	兼15	-
		専門教育科目	国語科教育概論(書写を含む。)	1後	2							1				兼5 兼5 兼2 兼3 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	社会科教育概論		1後	2												
	算数科教育概論		1後	2												
理科教育概論	1前		2								1					
生活科教育概論	1後		2								1					
音楽(器楽)	1前		2								1	1				
音楽(器楽)	1後		2								1	1				
音楽(器楽)	2前		2								1	1				
音楽(器楽)	2後		2								1	1				
音楽(声楽)	1前		2													
音楽(声楽)	2前		2													
図画工作	1前		2													
家庭科教育概論	1前		2							1						
体育	1前		2									1				
教職概論	1後		2													
教育原論	1前		2							1						
保育原理	1前		2													
保育原理	1後		2							1						
保育原理	2後		2							1						
教育史	1前		2							1						
教育心理学	1後	2									1					
発達心理学	1前	2									1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(初等教育科 - 現行)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	教育行政学	2前	2												兼1
	教育法規	1後		2					1						
	教育課程論	2前		2					1						
	教育方法・技術論	2前	2						1						
	国語科指導法	2前		2						1					
	社会科指導法	2前		2						1					
	算数科指導法	2前		2					1						
	理科指導法	2前		2						1					
	生活科指導法	2後		2						1					
	音楽科指導法	2前		2						1					
	図画工作指導法	2前		2											兼1
	家庭科指導法	2前		2					1						
	体育科指導法	1後		2							1				
	道德教育の研究	1前	2												兼1
	特別活動の研究	2後		2											兼1
	生徒・進路指導論	2前		2							1				
	教育相談論	2後		2							1				
	保育相談論(カウンセリングを含む。)	2後		2							1				
	教育課程・保育計画総論	1前		2											兼1
	保育内容(健康)	1後		2							1				
	保育内容(人間関係)	2前		2							1				
	保育内容(環境)	2前		2						1					
	保育内容(言葉)	1後		2							1				兼1
	保育内容(表現)	1後		2							1				兼1
	保育内容(表現)	2後		2											兼1
	総合演習	2後		2					1	1	1				
	事前事後指導	2通		1						1	1	1			
	教育実習	2前・後		2							1	1			集中
	教育実習	2前・後		2							1	1			集中
	社会福祉原論	1前		2					1						
	社会福祉援助技術	1後		2											兼1
	児童福祉	1後	2									1			
	児童福祉	2後		2											兼1
	養護原理	1前		2											兼1
	小児保健	1後		2											兼1
	小児保健	2前		2											兼1
	小児保健実習	2前		1											兼2
	小児栄養	1前		2											兼1
	精神保健	1前		2								1			
	家族援助論	2後		2					1						
乳児保育	1前		2					1							
乳児保育	2後		2					1							
障害児保育	2後		2											兼1	
養護内容	1後		2											兼1	
乳幼児心理学	2後		2							1					
保育方法論	1後		2											兼1	
造形演習	2前		2											兼1	
幼児体育	1前		2											兼1	
保育実習	2前		5					1		2				集中	
保育実習	2後		2					1		2				集中	
子ども学	1前		2					1							
子ども学	1後		2							1					
子ども学	2前		2						1						
子ども学	2後		2						1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(初等教育科 - 現行)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
留学生特別科目	日本語講座	1・2前		2											兼1	
	日本語講座	1・2後		2											兼1	
	日本語講座	1・2前		2											兼1	
	日本語講座	1・2後		2											兼1	
	日本語講座	1・2前		2											兼1	
	日本語講座	1・2後		2											兼1	
	日本語講座	1・2前		2											兼1	
	日本語講座	1・2後		2											兼1	
	日本事情	1・2前		2												兼1
	日本事情	1・2後		2												兼1
日本社会	1・2前		2												兼1	
日本文化	1・2後		2												兼1	
社会 関する 教育 科目 主事 に	生涯学習・社会教育の指導者	1後			2					1						
	社会教育計画の立案	2前			2										兼1	
	社会教育施設の経営	2前			2					1						
	青少年教育計画演習	2後			2					1						
	社会教育演習	2前			2					1						
	社会教育実習	2前			2					1						
	小計(92科目)	-	22	151	12	-	-	-	5	4	4	0	0	0	0	兼30
合計(123科目)	-	22	205	12	-	-	-	5	4	4	0	0	0	0	兼44	
学位又は称号	短期大学士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
教養教育科目第1群6単位以上、第2群2単位以上、第3群2単位以上を含み、教養教育科目14単位以上、専門教育科目必修科目22単位、選択科目26単位以上を含む48単位以上を修得し、62単位以上修得すること。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(子ども健康学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 第1群 人文・社会・芸術科目	文章力をつける	書くことは、自分自身を見つめながら言葉をつむぎ出す作業である。あるいは、自己を捉える言葉・対象や他者を捉える言葉を獲得し、磨き上げていく作業でもある。本講座では、様々な文章のフォーマット(基本形式やルール)を理解すると共に、実際の課題(全15回)への取り組みを通じて、表現することの難しさと楽しさを体感する。	
	芸術を楽しむ	現代人の心は病んでいると言われるようになって久しい。仕事や勉強、子育て、人間関係などのストレスが、日々の生活の場で重くのしかかってくる不安な社会状況もある。そんな私たちの心を癒し、慰めてくれるのがさまざまな音楽である。中でも古今東西のいわゆるクラシック音楽には、精神医学・生理学などの分野からも、特に高いリラクゼーション効果があると指摘されている。この講義では人間が生きていく上で、有効かつ実生活に活用できる有意義なクラシック音楽に触れる。音楽および芸術作品を鑑賞するために必要な知識をわかりやすく学ぶ。	
	歴史と文化	学校教育というのは、現在のあなたをかたちづくる要素のひとつでもある。さらに、ある年代の頃に出会った読み物や教材というのは、あなたをはじめ同世代の仲間たちに、直接的・間接的の差はあるだろうが、何らかの形で影響していると言えるだろう。文化的な問題である。本講座では、現在の教材に収載されている作品を取り上げ、あなた自身が児童だった頃の作品に対する《読み》と、いまのあなたの《読み》とを対置していく。児童文学作品の読み方・楽しみ方を学ぶとともに、作品に対する《読み》を媒介としてあなたの内面の成長史を考える。	
	日本国憲法	法律知識の習得により、具体的な社会問題に憲法的論点を感じとれるセンスを身につけることに主眼を置いて、憲法の基本原理をわかりやすく解説しつつ、主に以下の2点を重視して学習を展開する。 1.現代日本におけるさまざまな人権問題を通して、日本国憲法の有効性と限界とについて学習する。 2.本講で扱うテーマはさまざまであり、憲法以外の諸法域(民法、刑法、社会保障法、労働法など)にも関係するから、これらについても基礎的学習に努める。	
	暮らしと経済	経済の国際化や構造改革により、私達の暮らしを取り巻く環境は劇的な変化を遂げている。また、少子高齢化や女性の社会進出、ライフスタイルや価値観の多様化といったことも、社会を変化させる大きな要因となっている。この講義では、私達の日々の暮らしに関する問題や話題をとりあげながら、それらの要因や構造、背景などを経済学的視点から分析し、これにより社会変化の潮流を学生に直観的に理解させることを目的とする。	
	ジェンダーと社会	ヒトは女性として(男性として)育てられ、それぞれ期待された性質や役割について学び、実行することを通して「一人前」の女性(男性)になってゆく。そのような性質や役割を期待する社会と一個人の意思が一致しない場合、社会はその個人の意思や行為を逸脱・病い・犯罪とみなし、人権を侵害することもあるだろう。本講義は、このような個人と社会との関係について学ぶ。	
	生涯学習と社会教育	いつでも、どこでも、誰でもが各自のニーズに応じて学ぶことのできる生涯学習社会の実現が求められている。生涯学習と社会教育の概念を明らかにし、その現代的意義を考える。 子どもの教育・学習だけでなく、人生各期の学習のあり方や子どもと成人学習者の特性の違いを理解することによって、教育者として幅広い視野を持つ。さらに、生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育の関係、学習支援の方策、地域の教育課題や現代的課題について理解し、地域の子育て支援や高齢者による学校支援についての具体例を通して、教育・保育現場で役立つ知識を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
第 1 群 人 文 ・ 社 会 ・ 芸 術 科 目	同和教育	<p>同和問題に対して正しい知識と認識をもち、問題解決へ積極的にかかわろうとする意識と実践力を身につけさせ、以下の4点を重視して学修を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 同和問題の現状を正しく理解し、同和問題と自分自身のかかわりを考え、自らの課題として同和問題を学びつづける態度を培う。 2. 部落差別の歴史と問題解決の歩みを知り同和問題への認識を深める。 3. 同和問題を人権問題として現実にとらえる。 4. 人権・同和教育を通して人間の可能性・可変性を広げる。 	
	異文化交流	<p>本学では、多くの海外姉妹大学と提携し、長期休暇を利用した多彩な短期海外研修プログラムを計画・運用している。参加学生は、言語習得のみならず、現地での実体験を通して異文化理解を深めることができる。本科目の目的は、研修の成果が十分に上がるよう指導することであり、次の3つの活動により構成される。1.参加する学生に綿密な事前指導を行う。2.研修中も逐次コンタクトを取り続ける。3.帰国後は詳細な報告を義務づけ、評価する。</p>	
第 2 群 健 康 ・ 自 然 科 目	生涯スポーツ	<p>健康に生きることが人間の共通目標に置かれ、健康であることの重要性が理解されるようになってきた。健康であるということは体力の維持・増進はもとより、良い人間関係を保ちながら環境に対して調和した適応力を持ち創造的な活動を行うことが重要となる。受講生が、自ら選択する各種スポーツ種目において適切なルールや実践方法を理解し、楽しみながら体力の維持・増進が図られるような身体活動を考える。また、社会的性格の育成や生涯にわたって自主的な生活を営むことのできる基礎を学習する。</p>	
	健康の科学	<p>(概要)本講義は、人間の健康を科学的・実践的に検討するため、各専門領域の4名の教員により以下に示すようなオムニバス形式で行う。 (オムニバス方式/15回) (4 加知ひろ子/3回)心理学領域から、家族、友人、職場環境などの人間関係と心の健康について考える。 (11 松崎守利/4回)肥満および減量について理解しながら、自己のウエイトコントロールについて考える。 (14 堀香/3回)心理学領域から、自分のストレスの状況やストレスマネジメントについて考える。 (46 相原豊/4回)体育領域から、運動・栄養・飲酒・喫煙等と健康との関連を検討しつつ、自己の健康評価について考える。 (全員)/1回)全講義の総括 これらを学習を通して、現在の各自の生活習慣や健康状態を確認しつつ、今後の健康管理(運動・栄養・心理各領域)のプログラミングをして数週間実施していく。その結果から現在の生活習慣を見直すとともに健康管理の一指標を見出し、自己管理ができる能力を高めることを目指す。</p>	オムニバス方式
	心の科学	<p>心の問題に対する興味・関心の高まりに伴って、臨床心理学を学びたいというニーズが増えてきた。本科目では、臨床心理学の視点から、人間理解および援助について学び、同時に心理臨床に携わる者が、学校・医療現場などでどのような実践をしているのかについて解説する。</p>	
	環境と人間	<p>我々人間は、環境との絶え間ない関わりを繰り返し、存在している。この講義は教養教育科目として、自然環境と人間、環境としての対人関係、環境とストレスを主なテーマとし、様々な視点からよりよい人間と環境のあり方について考えていくことを目的とする。授業内容としては、環境と人間の関わり方の歴史、諸外国と日本の環境への取り組み、環境モデル都市に向けた取り組みを行っている地元北九州市の環境の施策の紹介等も取り入れる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第3群 外国語・情報科目	英語	英語の読み、書き、聞き、話すという4つの技能の基礎的な能力を身につけることを目的とする。特に、聞くこと、話すことの基礎的な能力の養成を中心に学習を進めていく。生活場面における会話、保育や教育に関わる子どもとの平易なコミュニケーションなど具体的な場面を想定した題材を用いて、初歩的な英語コミュニケーション能力を身につけつつ、基本的な文法も習得できるよう指導する。	
	英語	「英語」で身につけた基礎的な能力を基盤にして、英語コミュニケーション能力をさらにレベルアップさせる。生活場面における会話など引き続き身近な具体的な題材を用いる一方で、社会問題や保育・教育などに関連する具体的かつ多様な題材を取り上げ、個々人の語彙力を豊かにするとともに、今後の発展的英語学習の基盤をつくる。	
	情報処理	本講義の目的は情報の収集、伝達、処理、表現、保存などの活動をコンピュータを用いて行うための知識、技術を身につけることである。また本講義では、現代の情報社会において必須である、情報に接する時の注意点と問題点、マナーなどの基礎的事項、情報の交換や社会的共有についても習得することを目的とする。	
	情報処理	情報処理とは様々な情報の収集、伝達、処理、表現、保存などの活動を用いて行うための知識、技術を身につけることであるが、本講義では「情報処理」において学習した内容をさらに展開させ、思考と表現を中心とした教育実践のための学習活動全般に有用となる高度な知識と技術を習得することを目的とする。	
第4群 キャリア支援科目	キャリアデザイン	「キャリアデザイン」とは、自分が置かれている現状をしっかりと把握し、自分の人生でどんなことに重点を置き自分らしく生きていくべきかを計画することである。「キャリアデザイン」では、自分の人生設計をデザインしつつ、本学に開設された保育、教育関連の各進路について理解を深め、自分の進路を決定するために必要な支援を行う。具体的には、キャリアデザインの意味を理解すること、就職および女性の生き方を考えること、本学に用意されたキャリアモデルを理解すること、自分に適した職業を考えること、などが含まれる。	
	キャリアデザイン	「キャリアデザイン」で学んだことを基盤に、各自の進路に必要とされる教養や専門的知識・技術について、各授業と関連させながら、自分のロジックツリーを埋めつつ自己の弱点を補う。具体的には、保育、養護教諭、医療、一般企業の各進路ごとに、それぞれに用意されたプログラムを受講していく。	
	キャリアデザイン	「キャリアデザイン」および「キャリアデザイン」で学んだことを踏まえて、「キャリアデザイン」における各進路別プログラムをさらに継続・発展させる。この「キャリアデザイン」では、各進路別に採用試験に具体的に対応するプログラムを導入するとともに、各自が各進路先で働く環境を充実させるために何が必要かを考える授業とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	第4群 キャリア支援科目	キャリアデザイン	「キャリアデザイン」では、就職を直前に控えて、社会に本格的に出ていく準備をするため、社会人として求められるマナーの基礎を徹底的に学ぶ。マナーは姿、形を美しくするだけでなく、心の豊かさや美しさを心掛けるよう指導する。具体的な内容としては、対人関係のマナー、会話の作法、ビジネスシーンの上下関係などのプログラムを組み入れる。	
	専門教育科目	基礎科目	子ども学	社会において子どもをどのように位置づけるかは、保育や教育の内容や方法に大きく影響を与える。さまざまな社会や時代で子どもの位置づけは変化してきている。本授業では、子どもとは何か、子どもとは人間の一生でどのような時期か、さらに大人と子どもの境界とは、といった子ども観や大人-子どもの関係のあり方など、我が国における子どもの定義や子どもの処遇の背景にある歴史的、社会的、文化的要因について学ぶ。
児童福祉			現在、わが国の児童福祉は大きな転換期を迎えている。かつて児童福祉は、親がいない子ども、貧しい子ども、恵まれない子どもなどへの保護、救済が中心課題であった。しかし、現在では児童福祉法の改正にともない、すべての子どもがよりよく生きられるよう、また自己実現が保証されるように支援する考えへ変換されつつある。さらに一方では、子どもをめぐる諸問題が、現在、社会的にも非常に注目されている。本講では、児童福祉の理念と意義、子どもたちの現状、児童福祉各分野の現状把握を基礎とし、現代社会における児童の位置づけを全体的に把握することを目的とする。	
乳幼児心理学			本講義では、前半に乳幼児の心の発達に関する基礎知識を学ぶ。対人関係の基礎としての愛着の発達と「私」という意識、すなわち自己の発達理論について学ぶことを主とし、保育実践での発達の考え方に役立てることを目的とする。後半では現代の子育てと保育にまつわる問題について考えていく。児童虐待、育児不安、親子の関係性にまつわる問題、発達の遅れと発達障害に関する問題を中心とする予定である。現代の子育て支援において大きな役割を持つ保育者として、乳幼児期の親子への支援のあり方を考えることを目的とする。また、授業のまとめとして実習での体験エピソード報告から支援のあり方について考える。	
発達心理学			発達心理学は人間の生涯にわたる発達についての学問であるが、この講義では特に乳幼児期から児童期の発達について様々な角度から学ぶ。保育、教育において子どもを支える立場に必要な発達心理学の基礎知識の習得と、子どもの成長に保育者、教育者が寄り添うことの意味について考えていくことを目的とする。	
乳児保育			本講義では、乳児の発達の理解、乳児保育の発展の経緯とその文化的・歴史的背景、並びに今日の保育制度、子育ての現状について講ずる。また、それらを踏まえて、0,1,2歳児の成長発達段階の特徴と保育のポイントを確認しつつ、保育計画の立案を行う。また、保育をめぐる家庭・地域との連携について検討することを通して、子育て支援等における保育所および保育者の役割を理解する。	
保育原理			本講義では、保育に関する基礎的・基本的内容について全般的な学習を行う。すなわち、保育とは何か、保育を支える制度、保育の歴史、保育内容および方法、保育計画の作成とその評価、保育者の役割など多岐に亘る。これらの学習を通して、子どもや子ども集団および保護者に対する適切な対応が求められる保育実践の基本的知識を習得する。また、近年の保育を取り巻く環境の変化とそれに対応する保育の今後のあり方についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 教育 科目	基礎 科目	保育原理	保育原理 で学修した保育に関する基礎的・基本的知識を基盤として、本授業では、第一に保育の今日的課題のなかから「少子化」や「子育て支援」などをキーワードとして親子関係の現在と保育者の役割について考える。第二に、保育行政の動向を把握しつつ、今日の保育の課題と今後の方向性について考える。そして第三に、保育所・幼稚園実習に向けて、具体的保育実践例を検討しながら、保育者の援助や指導計画作成などについて考える。
	社会福祉原論	現在、わが国は急速な少子高齢化の進行、さらに社会経済の激変から、私たちの生活は大きな衝撃を受けている。こうした状況の中で、誰もが健康で安定した生活を営み、かつ自己実現を図るためには、一人ひとりの自立と社会連帯による施策や事業・活動(社会福祉)の充実が必要といえる。また、社会福祉に関する知識・技能は、今後、保育・看護・医療など他領域の専門家にとっても必要性の高いものとなるだろう。本講では、社会福祉の理念と意義、社会福祉の法体系や福祉サービスの現状等について学び、社会福祉とは何かについて総論的な理解を深める。	
	精神保健	近年、子どもたちの精神医学的問題が、社会的に大きな注目を集めている。これらは、現代の社会情勢の変化など、様々な要因が複雑に絡み合う中で起こりうる問題といえる。今後は、こうした問題を医療分野だけでなく、多方面の領域からサポートすることが必要かつ重要といえる。特に発達前期といえる乳幼児は、その後の心身の成長・人格形成に大きく影響を及ぼすことから、こうした時期にかかわる保育者は、精神保健・医学に関する知見を有し、支援者としてどのようにかかわっていくか、認識する必要があるだろう。本講義では、乳幼児期から思春期までを中心とした子どもの精神保健について学びを深める。	
	小児保健	小児保健は、子ども達の心身の健康を維持、増進するすべての活動をいい、育児や保育、栄養、心理、教育、社会福祉などあらゆる場面で実践されている。子ども達が健やかに成長発達していくために、周囲のものは正しい知識をもって対処しなければならない。そのために必要な知識として子どもの健康、成長、発達、栄養、基本的生活習慣、子どもを取り巻く環境、小児保健行政について学習していく。また、母体の健康の保持増進から母子保健との関連についても学習する。	
	救急処置	保育者および養護教諭に対する救急処置技術の期待は大きい。保育・教育現場で発生した子どもの傷病に対し、重症度・緊急度の判断を行い、被害を最小限にし、苦痛の緩和を図り、安全安楽な状態にするための処置が必要とされる。保育者および養護教諭として、子どもの病状や状況の判断に必要な知識と、各症状に対する救急処置、さらには救急時の適切な指導について学ぶことを目的としている。	
	看護学	女性には子どもを産むという生殖機能がそなわっているため、男性と違って女性のからだは神秘的でとてもデリケートにできている。まずは、自分の体を知り自分をトータルに好きになり自分自身を大切にすることから始める。そして、心とからだのバランスを保ち、女性として健康的に生き生きと美しく輝いていられるためにはどうしたらいいかを考えていく。	
	基幹 科目 (発達 支援 領域)	教育課程・保育計画総論	乳幼児期は、人格形成の基礎づくりとして重要な時期である。乳幼児期の保育・教育について基礎的な理論から具体的な指導内容を学び、乳幼児の発達を見通して乳幼児期にふさわしい生活が展開されるよう指導計画・保育計画作成の在り方と具体的な作成手順について学ぶ。幼児教育を困む社会環境が大きく変わりつつある今、地域社会からも保育の重要性の認識は広がりつつある。保育者としての質の高さが求められているこの時期、乳幼児の発達を理解し、環境を通して行う教育を基本とした実践力のある保育者の在り方について学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基幹科目 (発達支援領域)	保育内容総論	保育の基本と保育内容・方法について理解することを目的とする。領域毎に示される保育内容を総合的に捉える視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学び、発達過程に即して子ども理解を深める。また、総合的に指導・援助を行う実践的な力を習得するために、具体的な保育活動事例について演習形式で学ぶ。さらに、各領域に視点を生かしながら保育を実践する際の留意点について学び、具体的方法について理解を深める。	
	保育内容(人間関係)	本講義は、子どもの健やかな成長にとって“人間関係”がどのように重要であるか、その理解を深めることを目的とする。併せて、子どもの人間関係を育むために、保育者としての実践力を高めることを目的とする。子どもを理解するための多角的な視点、感受性の獲得も併せて期待する。	
	保育内容(環境)	保育内容(環境)に関する基本的な内容を体験を通して学ぶ。保育内容(環境)のねらい、内容、内容の取扱いについて学ぶ。さらに、幼児が自然との関わりを深めることができる活動について、具体的に体験し、工夫し、模擬保育を行う。これらを通して、幼児にとっての環境の持つ意味、発達における環境との関わり的重要性、幼児の自然認識、幼児にとっての環境教材の意義、保育者の役割を検討、考察する。	
	保育内容(言葉)	言葉が持つ機能や役割、乳幼児の言葉が、母親や家族、仲間とのかかわりのなかで育っていく過程を学び、それらをもとに言葉の豊かな育ちにかかわる保育者の役割と援助について考える。特に、演習を通して、言葉の機能や役割について主体的に学び、子どもの言葉を豊かにする教材に触れ、演じるなどしながら、言葉の育ちに保育がどうかかわることができるかを考えながら学ぶ。	
	保育内容(表現)	幼稚園教育要領に示された、感性と表現に関する領域について、具体的且つ実践的な指導法を中心に講義を交え、実技・演習を行う。内容的には、音楽表現および身体表現においてはリズム(音楽を各自の身体や感覚を通して学ぶ)を基本に、幼児の発達に即した、音楽活動や運動遊びを日常生活の総合的な指導の中に取り入れて考えていく。また、造形表現においては、多様な材料を用いた玩具づくり等を通して造形活動の内容と方法について習得する。最終的には、音楽、身体、造形の各活動を総合した表現活動へと繋げていく。	
	児童福祉	少子高齢化の進む現在、児童福祉援助の量的質的向上は非常に重要な課題となっている。この児童福祉 には児童福祉 の総論をうけて、各論としての授業をすすめる。特に、保育所や児童養護施設、あるいは知的障害施設や重症心身障害児施設における援助活動の実態など、できるだけ多くの具体的事例の検討を通して、子どもを幸せにする援助は如何にあるべきかを具体的に学習する。	
	乳児保育	乳児保育 で学習した事柄を踏まえて保育理論をより深めるとともに、保育実習で捉えた問題を追究するためにテーマごとに課題研究を課す。課題研究の成果を発表することを通して、多面的に乳幼児の心身の発達を確認し、発達を促進するような保育者としての働きかけや、適切な環境整備のありかたを知り実践できるようになることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 教育 科目 基 幹 科 目 (発 達 支 援 領 域)	社会福祉援助技術	これまで習得してきた社会福祉の知識をもとにして、ソーシャルワークについての学習を行う。現在の社会では、福祉サービスを必要とする様々な問題が存在する。問題の解決のために必要な援助を提供する援助者が用いる理論や技法が「ソーシャルワーク」とよばれるものであり、その実践者であるソーシャルワーカーは、問題解決の援助を行う際、専門的な知識のみでなく自己覚知と豊かな人間性が求められる。本講義ではできるだけ多くの事例を通して各自がより質の高い良い援助者に成長することを目指す。	
	家族援助論	現代のわが国において「援助を要する家族」は特別な存在ではないと言われる。生活を取り巻く社会・経済的環境の悪化とともに、少子高齢化に伴う家族の不安と孤立化する親たちが増大している。変動する社会のなかで多様な家族のニーズに応じた支援が求められている。現代家族の状況と家族援助の取り組みについて講ずる。	
	障害児保育	障害を持って生まれた子どもたちの健やかな成長を願うとき、幼児保育の果たすべき役割は大きく、適切な対応がなされることが社会的にも強く要請されている。本講義では、一般的に多く見られる発達障害をいくつか取り上げて病理と心理を中心に障害に関する基礎的な知識を概説するとともに、幼児保育において必要となるであろう具体的な障害像の理解とその支援の在り方について考察し理解を深めることを目標とする。	
	養護原理	今日、子ども、家庭を取りまく社会の構造やその環境は大きく変貌を遂げ、子育ての脆弱化等にもなう子育て支援の必要性がとりざたされているなか、養育の社会化が新しい子育ての役割として位置づけられてきている。昨今の社会的問題として、児童虐待、障害児についてどのように対応をしたら良いのか、その概念を学び、対応策について検討する。具体的に、親子関係や、特に児童養護施設の施設職員と児童との関わりを例として取り上げながら、より実践的な知識を身につける。	
	養護内容	子どもの権利擁護を基本とし、子どもの安全・安心な生活の確保に加え、心の傷を抱えた子どもたちに必要な心身のケアや治療を行い、その子どもも社会的自立までを支援することが、社会的養護の役割であることへの理解。さらに子どもを中心におきながら、家族の再統合、家族や地域の養育機能の再生・強化といった、親を含めた家族や地域に対する支援の重要性の理解。保育士は、社会的養護の重要な担い手であると考えることが出来るように、また、いくつかの事例やさまざまな施設生活場面を設定するなどの演習を通じて、実際の養護活動の展開が具体的にイメージできるように、さらに今後の施設養護のあり方、内容、方法についても考察する。	
	保育臨地実習	保育に関する各教科の学習を踏まえつつ、実際の子どもや保育の姿を体験的に理解するため、本学に隣接する附属幼稚園等において定期的な実習を行う。見学や観察、あるいは補助的活動を通して、幼稚園における子どもの成長・発達、幼稚園の機能、並びに保育者の役割を理解する。この授業によって、各教科の学習内容の理解を深めるとともに、「教育実習」や「保育実習」と合わせて実践的力量を強化することをねらいとしている。	
	保育実習・事前事後指導	児童福祉施設の内容や機能についての理解を深め、既習の学習内容を基礎に、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にすると共に実習体験を深める。実習の意義・目的・内容、実習方法、心構え、実習課題の明確化、実習記録の意義と方法を理解する。実習中の巡回指導を行い実習担当者と連携して指導を行い、実習終了後に総括・評価を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門教育科目 基幹科目 (発達支援領域)	保育所実習	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学び、保育の実践的理解を深める。観察実習と参加実習を中心として乳幼児の発達および発達過程とそれに応じた保育の実践について学ぶ。また、記録の意義や子どものとらえ方、保育所の役割など、保育者としての視点や考え方を指導保育者の下で学び、実践的理解を深めるとともに以後の学習に向けた課題を明らかにする。	
	保育所実習	保育所実習 の経験とその後の学習をふまえ、保育所における保育活動について、指導保育者の下で計画・実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。参加実習、責任実習を中心として、子どもの成長・発達に及ぼす保育のあり方について学び、クラス経営や家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズについて理解を深め、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要な能力を養う。	
	施設実習	事前指導を修了した学生に対し、児童福祉施設(乳児院、児童養護施設等)において保育士資格取得に必要な実践指導を行うものである。実習施設において、施設の担当者が実習指導を行うとともに、所属学科の担当教員が実習期間中に巡回し、あわせて指導を行う。それらによって、施設の機能や役割の理解、児童の理解、保育士の職務内容と役割の理解、援助技術の獲得といった部分を中心に学び、専門職である保育士に必要な資質を習得する。	
	施設実習	施設実習 において学んだ保育士に必要な援助に関する基礎的な資質を基盤として、その後の学習の成果とあわせて、再び児童福祉施設(乳児院、児童養護施設等)の現場において実践的な指導を受けて、学びを深めるものである。実習施設での施設担当者による指導、担当教員による巡回指導等によって、施設の機能や役割の理解、児童の理解、保育士の職務内容と役割の理解、援助技術の獲得といった部分を中心により深く学び、保育士に求められるより実践的かつ高度な資質を習得する。	
	総合演習	現代社会を「子どもを取り巻く環境」という視点から見たとき、どのような課題が浮かび上がってくるだろうか。「子どもを取り巻く環境」を「子ども文化」として捉え、子どものためにつくられた文化(絵本、おもちゃなど)をできるだけ多く観ること、新たな文化を探ること、そして自分たちでつくってみること、これらの活動を通して、今日の子どもの状態や、子どもに対する大人の思いなどを考えとともに、私たちが考えつくった子ども文化を発表する。それを通して保育者や教育者として豊かな子ども文化を子どもに提供できる力を身につける。	
	国語科教育概論 (書写を含む。)	母語としての言葉は、私たちの日常(物の見方・感じ方、あるいは他者との交流)を支えるばかりではない。自身や対象を捉え、表現する言葉の獲得は、個の成長とも密接に関わるものである。私たちにとって身近で当たり前に見える言葉の学びであるからこそ、国語科教育の意義と目標、指導の系統性や方法について自覚的に捉えることをめざし、主に以下のような到達目標を掲げ授業を行う。 1. 幼児教育・初等教育における言葉の学びの意義と重要性について理解する。 2. 国語科教育の歴史を知り、各指導領域の概要を理解する。 3. 活動および授業指導のための基本的な知識・技能を習得する。	
	算数科教育概論	幼稚園教育要領に明示される「幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続」の考え方を踏まえ、数や量、あるいは物事の法則性に対する子どもの認識に関する知識、およびそれに応じた教育に必要な目標・内容・方法・評価に関する知識を獲得し、算数科の授業構成の基本原則に基づいて実際に算数科の授業が計画でき、しかも望ましい算数教育の方向性について認識できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門教育科目 基幹科目（発達支援領域）	生活科教育概論	幼稚園教育要領に明示される「幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続」の考え方を踏まえ、学習指導要領解説をもとに生活科教育に関わる基本的な内容について学ぶ。また、新学習指導要領で新しく設定された内容およびその教材について、その調査、発表等を通して、今日の生活科教育の意義やねらいについて考えを深める。さらに、生活科の学習材、活動例について体験的に学ぶ。		
	音楽（器楽）	本演習は、幼稚園教員および保育士として最低限必要な音楽教材を、ピアノで演奏出来るようになることを目的とし、ピアノ演奏のための基礎技術（簡単な楽典等も含めて）を習得する。また、ピアノ実技を個人指導の形態で授業を行う。		
	音楽（器楽）	本演習は、音楽（器楽）の単位を取得できた場合に履修できる。器楽で学んだものを土台として、幼稚園・保育園の保育現場に必要な課題に取り組み、技術の向上を図り、ピアノ実技を個人指導の形態でレッスンをを行う。幼稚園・保育園参考教材を中心に、できるだけ多くの曲が弾けるように指導する。		
	音楽（声楽）	本演習は、幼稚園教諭および保育士のための声楽の基礎訓練とそれを基盤にした歌唱技術のレベルアップを目的としている。基本的には、演習重視の授業形態をとり、発声器官の鍛錬と主な歌唱技術の習得をめざす。その中で、子どもの前で自信をもって歌えるように、ジャンルを広げているような歌に取り組み、レパートリーを増やすことができるよう支援する。		
	図画工作	図画工作の教育は、色、形、材質などに直接触れ、これを媒介にして、平面や空間に自己の実在感を確立するものである。そのことをふまえ、制作者として心情を追求し、図画工作が何であるかを理解し、その具体的実践の方途について研究する。以下の4点について実技基礎演習をする。 1.表現材料と描写の関係について 2.自然材を使った「遊び」について 3.画面構成と色彩の関係について 4.立体表現について - 紙・粘土		
	小児栄養	基本的な生活習慣の一つである「食事」は、小児だけにとどまらず、ひとの心身の健康にかかせないものである。本講義「小児栄養」では、教育者や保育者に必要な栄養の基礎や食事の大切さおよびマナーを学ぶとともに、簡単な調理実習を通して、調理操作の技術も身に付けることを目標としている。調理実習の内容としては、乳幼児期の栄養として調乳や離乳食、幼児期の栄養として間食や簡単な食事などを実習する。		
	小児保健	小児保健で学んだ子どもの健康な成長発達を理解したうえで、保育実践における保健活動の重要性を理解する。なかでも子どもに多くみられる健康問題について理解し、集団生活をおくるうえでの対応や、健康観察、健康管理、健康教育の重要性について学ぶ。さらに、保育現場において保育実践の根拠となる基本的知識を習得し、保育士の資質向上をねらいとする。		
	基幹科目（健康支援領域）			

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 教育 科目 基 幹 科 目 （ 健 康 支 援 領 域 ）	小児保健実習	小児保健・で習得した知識に基づいて、保育士として現場で保健衛生に関する実践が行えるよう実習をする。本実習では、特に子どもの気持ちを十分に理解することに重要性を鑑み、子ども役を演じることを通して、保育される子どもの気持ちの理解にもポイントを置く。また、子ども自身が自己を守れる力を身につけることも重視し、子どもが自ら進んで健康的な生活習慣を身につけるようになるための指導力を育成する。	
	幼児体育	「体育」を発展させ、幼児の発達段階に応じた遊びとその発展としてのスポーツおよびその指導方法について理解を深める。幼児期は生涯にわたる継続的なスポーツ習慣の基礎を培う時期である。この時期にさまざまなスポーツ活動の楽しさに出会い生活化することの意義や幼児期のスポーツ指導の重要性を理解すると共に実践力のある指導力を身につける。	
	体育	子どもの全体的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深めるとともに、子どもの体育指導に必要な技術・技能を獲得することをねらいとする。したがって、講義による理解の後、各班・各グループにて実技を行う。各種の遊びをとおして、子どもに基本的な運動能力（姿勢制御能力、人・物への対応能力、調整力など）を獲得させることができる理論と指導技術を身につけることを目標とする。	
	保育内容（健康）	子どもの健康、子どもの運動発達、子どもの運動遊び、子どもの生活習慣や生活リズムなどに関する事項についての理解を深める。こうした健康教育や体育指導に関する実践的内容をもとに、教育学、心理学、医学、運動学の諸領域の文献からも情報を得る。さらには、新聞やテレビによるリアルタイムの情報にも目を向け、現代の子どもをとりまく健康の実態を理解する。人間の身体や健康、それらを取りまく環境についての理解を深め、子どもの健康の維持・向上を図るうえで必要な指導・援助に関する知識・技能・実習のポイント等を獲得することを目的とする。	
	保育相談論 (カネリガを含む。)	現在、わが国では、少子化・核家族化といった社会情勢の変化から、家庭のみで子育てを行うことが難しい時代にあるといわれている。そのため保育所には、従来の通常業務である保育に加え、新たに「地域の中で気軽に子育て相談が出来る場所」「豊富な育児専門知識の拠点」としての役割が期待されている。本講義では、専門的な相談援助における一定のルールや体系、原則、倫理について学び、併せて実践のための相談援助技術、心理療法、カウンセリングについても触れていく。	
	学校保健	学校保健は、学校における「保健教育」および「保健管理」、「学校安全」の三つの領域に分けられる。本講義の目的は、第一に、学校における保健管理および安全管理に関する基本的な事項について理解すること、第二に、子どもや教職員の健康の保持増進を实践するための基礎的な知識・技能を習得することである。学校保健に関する講義は「保健管理」「保健教育」「保健組織活動」の3つの領域から構成するが、この講義ではそのなかで、健康観の歴史の変遷、学校保健の歴史、子どもの発達・発育、学校保健の構造、保健学習および保健指導の現状などを具体的内容とする。	
	学校保健	「学校保健」における学習内容の継続とその発展的学習が、この「学校保健」の内容である。「学校保健」と同様、「保健管理」「保健教育」「保健組織活動」の3領域を視野に入れ学習を進めるが、とりわけ、「学校保健実習」への接続を意図して、具体的・実践的内容と方法によって授業を展開する。また、子どもや教職員の保健に関する今日の状況や具体的課題と対応についても学ぶ。さらに、保健室経営を通して、学校保健活動センターの充実や校内外の連携体制を推進するなど、学校保健の今日的な課題を多角的に対応・対処できるようにすることをねらいとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 教 育 科 目 基 幹 科 目 (健 康 支 援 領 域)	学校保健実習	学校保健 での理論をもとに実技を習得する。健康診断、学校環境衛生、救急処置の実践等、学校保健の実務の基本を具体的に取り扱う。各自が養護教諭の職務と保健室経営を具体的にイメージ出来るようにする。養護実習先や学校現場で即実践できるよう、確実に方法・技法を身につける。	
	養護概説	「養護概説」は、養護教諭の理論と実践の両面を学ぶ科目である。養護教諭の沿革や職務内容の変遷、養護教諭に必要な資質能力など、養護教諭の活動を基に教育実践全般において理解することを目的としている。さらに、養護教諭を目指す学生自身が望ましい養護教諭像を構築していく。	
	養護概説	学校保健、養護概説、その他の養護教諭として必要な基礎的科目で理論を学んできている。「養護概説」では理論を活用するための応用編として、実際の場面で活用できる養護教諭の能力や技術の向上を目指し養う体験型学習である。さらに、保健室における養護教諭の活動を具体的に学んでいく実践的科目である。	
	ヘルスカウンセリング	養護教諭が行う健康相談活動は、器質的疾患などに対して行う「保健相談」と心因性の症状などに対して行う「ヘルスカウンセリング」に大別される。いじめ、不登校など様々な教育問題は「心の健康問題」との関わりが指摘されており、養護教諭が行うヘルスカウンセリングへの期待も大きい。本科目では、養護教諭が行う健康相談活動のなかでも、特にヘルスカウンセリングの知識と技法を学び、学校現場でとりくむ際の基礎固めを行う。	
	ヘルスカウンセリング 演習	ヘルスカウンセリングの授業では、養護教諭が行うヘルスカウンセリングの知識や技法の基本を学んだ。本演習では、これからの養護教諭に期待されているカウンセリング能力の向上を目指す。構成的グループエンカウンターやロールプレイを通じて、カウンセリング場面で重要な基本的関わり方の技法を習得する。同時に体験の中で自己理解・他者理解を深めていくための訓練も行う。なお、ピアヘルパー資格に関わる内容も学習する。	
	衛生学	衛生学は生命および生活を守り、Quality of Life を向上させることを目的とする。衛生学は環境科学と生命科学を含む学際的な学問領域であり、環境保全および疾病予防、健康増進、寿命延長を目指す。健康科学を学ぶために必要な基礎知識を身につける	
	公衆衛生学 (予防医学を含む。)	集団生活における健康増進活動の意義、健康管理の方法、衛生行政と保健所との関わりおよび地域保健活動のあり方に加え、病気になるまいよう未然に防ぐという予防医学の観点から、生活習慣の点検、疾病予防への取り組み、傷害防止、感染症対策およびメンタルヘルスケアについて総合的に学習し、病気の進展や再発防止についての取り組み方についても検討を加えていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門教育科目 基幹科目（健康支援領域）	栄養学 (食品学を含む。)	栄養学とは“食品の栄養素に関する科学”であり、それらの生体との相互作用を取り扱う学問で、究極的には栄養学的に人間の健康の保持を直接の目的とし、そのために最も適した食物供給の量と質を明らかにする学問領域ないしは学問体系である。したがって、栄養学は非常に広い範囲の科学領域であり、栄養素を十分に理解するには、関連分野についての総合的な知識が要求される。本講義では、人体が必要とする栄養素の化学と生体内における利用を明らかにする。	
	生理・解剖学	人体の基本的な構造や機能について、まずはじめに細胞、血液、循環器、骨格、筋の化学、神経伝達および神経系の各事項に分類して理解する。次に、感覚、血管、免疫とリンパ、消化と吸収、呼吸、代謝、尿の生成と排泄、生殖および内分泌の各事項に分類して人体の構造や機能の理解を深めていく。これらの学習を通して、健康および健康増進に関する探求の基盤を培う。	
	微生物学 (免疫学を含む。)	抵抗力が弱く、感染症から自分を守るための知識・判断力が少ない児童が多く集まる教育現場においては、養護教諭は病原微生物の種類やそれらによって引き起こされる疾病の特徴も含めた知識を持つことが必要である。さらに、体内に侵入した病原菌を排除するための免疫機構についても理解を深め、免疫が望ましくない方向で現われたアレルギー、自己免疫疾患についても学び、教育現場での疾患の予防活動に関する指導に資する。	
	薬理学	将来、医療・保健・福祉領域に進出するための専門性を培うためまず病原微生物と消毒法について学ぶ。併せて、近年政府の規制緩和により、処方せん薬が非処方せん薬にスイッチされ販売されることが多くなってきたためこれらの医薬品の特徴と留意点の基本を学習する。	
	薬理学	処方箋薬が規制緩和により市中のいわゆる大衆薬（OTC医薬品）として販売されるものが増えてきた。その反面、世の薬学教育（平成24年度から中学校の新学習指導要領に盛り込まれる）は十分でない。ここでは、医薬品、医薬部外品、化粧品、特定保健用食品、栄養機能食品についてセフルメディケーションに係る薬育の実践力を養うことを目的とする。さらに、大麻、麻薬および覚せい剤など薬物乱用についても触れる。学習の証として、薬学検定4級の合格を目指す。	
	看護学	この世に誕生し、成長・発達し、そして死に至る人間のからだ、どのようなかたちで生活と折り合いをつけて生きていくのか、健康とは病気とは何かをそれぞれ深めていく。また生活習慣病を理解し、予防の具体的方法や看護について学び、自分の健康を自分で守るために必要なセルフコントロール能力育成の支援につなげていくことを目的とする。	
	看護学	子どもの発育発達、子どもの健康の概念、近年の子どもの生活環境および様々な社会的現象の理解を深めるとともに、子どもに多い日常的な疾患や、養護教諭として学校内において生活管理が必要な疾患とその看護について理解を深めていく。子どもをとりまく社会環境を見つめつつ、発育発達の支援、健康の支援、子どもと家族のソーシャルサポーターとしてのあり方も考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 教 育 科 目 基 幹 科 目 (健 康 支 援 領 域)	看護学実習	学生同士でペアを組み、看護者役と患者役という形式の実習を通して、基礎看護技術を身につけ、同時に患者にとって安全・安楽な看護はいかにするべきかを考える。さらには患者体験を通して、援助を受ける人の気持ちを理解し、よりよい援助方法について考えることができるようになることをねらいとする。	
	看護学実習	養護教諭として必要な救急処置技術や看護の基礎技術を習得し、学校現場やさらには地域・家庭において活用できる基本技術を身につける。実際に看護者役・患者役という形式での体験や、事前・事後学習を行うことで、よりよい援助について考えていく。	
	臨床実習	学内での看護学の実習・講義において学んだ知識、技術を活かして、実際の医療の現場における看護活動の展開を体験する。体験や見学を通して養護教諭およびコ・メディカルスタッフに必要な能力を養うとともに、個人の人権を尊重した患者とのかかわりの基本と健康や生命への畏敬の念を培う。	
	臨床実習	臨床実習を円滑に行うことができるように事前指導を通して実習への動機づけをし、心構えを構築すると共に、既修の基礎的な看護技術を応用させ対象の状態に応じたアセスメントおよび援助が展開できることをねらいとする。また、事後指導として、自己評価と学生相互の体験交流を通して課題の発見とそれに対する取り組みを行う。	
	医療秘書学	医療の分野で秘書的業務を担う人材を医療秘書と呼ぶ。「医療はサービス業」と位置づけされる昨今、医療秘書に求められる資質や能力・技術について学ぶ。具体的には、医師が本来の業務を遂行できるよう、補佐として事務処理をこなすことや、医療現場の専門職種の関係者と協働し、患者へのコミュニケーションの橋渡し役を担う。感じの良い立ち居振る舞いや言葉遣いが、病院の印象や信頼にも繋がる。病歴記録管理士(初級)、医事管理士、医療管理秘書士の資格取得のための必須科目である。	
	臨床医学	医療従事者として直接患者に接して診断や治療を行う立場ではないが、心身の不調に関するサインを早期の段階で気づき医療機関での診察や治療の必要性について適切な判断をすることは、特に子どもたちの保健アドバイザーとして活躍する養護教諭や保育士などにとって極めて重要な職務である。ここでは、軽微な臨床症状或は病態の急変にどのように対応すればよいか臨床例を紹介しながらそれに対する基本対応と治療に必要な薬品の適正な使用について学ぶ。	
	診療報酬請求実務	近代医療の高度化が進む中で、医療事務に対する専門性と必要性は医療機関では高く評価されてきている。昭和36年4月には国民皆保険制度がしかれ、健康保険法をはじめとする各種医療保険制度のしくみや診療報酬請求事務等に関する諸規則等の知識を養う。さらに窓口業務においては診療行為の料金化と医療機関の経営は医療活動によって得られ、診療行為により支えられているものであり診療報酬請求業務については、専門的な知識が要求されている為、その技能を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹科目 (健康支援領域)	医療・社会保障論	現代の日本社会における公共の福祉の根幹を支える医療制度および社会保障制度の各分野(公衆衛生、医療法、医師法および医療関連法体系、医療保障、介護保障、労働保険、公的扶助、社会手当、社会福祉サービス等)の仕組みと考え方について基礎知識を学んでいく。特に本学科の特性から公衆衛生学、保健学・看護学の知識の習得と重複する領域が多く、医師をはじめとした医療従事者と共通する知識・情報をもち、将来の臨床医療を事務的な側面から補助する者として、また、医療専門職と患者との橋渡しとなる人材にふさわしい知識を身につけることを目的とする。	
	医療情報学	医学には基礎医学領域、臨床医学領域、社会医学領域があるが、医療情報学はこれらの全領域に情報科学・情報技術という手法を用いて、横断的にアプローチする学問領域であり、医療の有効性と効率性を支える情報学的知識の発見と情報技術的発明・開発を目指している。情報科学の進歩は今日の医療の発展をもたらしたが、その中からエビデンスとなりうる知識抽出はまだまだ発展途上である。将来の医療管理に携わる、また、養護教諭として学校保健統計を扱う者として、医療現場にどのような情報システムが取り入れられまた利用されるのかという医療情報の基礎を学ぶ。	
専門教育科目 教職関連科目	教職概論(幼稚園)	本講義では、まず第一に、自ら進路として教職(幼稚園教諭)を選択したことを再確認し、幼稚園教諭という職業の意義や自己の適性について考える。第二に、幼稚園教諭の専門性について具体的な職務等を学び理解する。そして第三に、幼稚園教諭として全人教育に携わることについて受講者相互の意見交換も交えながら、教職の意義や専門性について自らの考えをより確かなものにするよう支援する。	
	教育原論(幼稚園)	この授業は、幼児期を中心とした子どもの教育に関して、家庭教育や幼児教育等の教育の営みの歴史、今日の幼児教育を中心とした教育制度、並びに教育内容や教育方法等について、基礎的基本的理解を得ることを目的とする。授業は次の四つをめざして進める。第一に、具体的な教育事象を題材に、子どもや教育の現状や課題について関心を持つこと、第二に、教育の歴史について基本的理解を得ること、第三に、子どもの人権保障、教育要領等の検討を通して、教育の理念や目的および制度について基礎的基本的理解を得ること、そして第四に、幼稚園教育を中心として学校教育が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる機能について考えること。	
	教育心理学(幼稚園)	人間の行動や心理の特性について学んだ上で、幼児教育場面における幼児の多様な活動をふりかえり、それぞれの場面での幼児の行動や心理の特性を理解し対応するためのスキルを学ぶ。本授業においては、幼児期を中心として、こころや知性の発達、学習過程、欲求や感情、人間関係などを主な内容として取り扱う。	
	教育行政学(幼稚園)	幼稚園、保育園、小学校、中学校など、教育をおこなう「場」は多くあるが、これらの「場」は、制度としてどのように設計され運用されているだろうか。また、設計や運用の背景にどのような理念や方針が含まれているだろうか。さらに、運用の過程でどのような課題が表れているだろうか。この授業では、特に幼児教育とそれに接続する小学校教育を対象にして、教育を支える制度、行政、法律の仕組みについて学ぶとともに、現代の教育改革について理解を深めることを目的とする。	
	教育方法・技術論	この授業では、子どもたちが自ら意欲的・主体的に学ぶ力や、興味関心を持って学習に取り組もうとする力を育みつつ、全体としての学力を身につけさせるための教育の方法や技術について習得する。具体的には、授業の類型と学習モデル、授業設計の方法と実際、教材開発の必要性と方法、メディアの活用、コンピュータと教育、教育評価等が内容となる。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 教 育 科 目 教 職 関 連 科 目	教職実践演習(幼稚園)	発達支援領域を中心に学び、幼稚園教諭をめざす学生を対象として、教職の意義、教育の基礎理論、教育課程および指導法等に関する知識・技能と教育実習等で得られた実践力との更なる統合を図り、子ども理解や教師の役割機能に対する理解を基盤とした確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその定着を目的とする。主な授業の形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。	
	事前事後指導(幼稚園)	教育実習は、学生のその後の進路選択において極めて大きな示唆を与える経験となる。本講義は、教育実習に赴く学生に教育実習の意義と実習のポイントについて事前指導するとともに、実習後にもその経験を無駄にせぬように事後指導を行い、幼稚園教諭としての資質と能力の向上を目指している。現在の教育動向と求められる資質、教育目標の設定、事前訪問・実習中の心得、生徒指導の心得、日誌・指導案の書き方、模擬授業の心得、模擬授業の実践、教育実習の評価などが講義内容である。	
	教育実習	短大で所定の単位を修得し、事前指導を修了した学生が教職に就くために必要な学外実習指導である。幼稚園教員の免許状取得をめざす者は、幼稚園において4週間の教育実習を行う。習得した学習内容を生かし、具体的な教師の仕事内容、子どもへの指導、援助を学ぶ実習指導である。実習中には担当教員が実習園と打ち合わせて巡回指導を行う。	
	教育実習	短大で所定の単位を修得し、事前指導を修了した学生が教職に就くために必要な学外実習指導である。幼稚園教員の免許状取得をめざす者は、幼稚園において2週間の教育実習を行う。習得した学習内容を生かし、具体的な教師の仕事内容、子どもへの指導、援助を学ぶ実習指導である。実習中には担当教員が実習園と打ち合わせて巡回指導を行う。	
	教職概論(養護教諭)	本講義では、学生自らが進路として教職(養護教諭)を選んだことについて再確認し、養護教諭としての適性や情熱を持って子どもに接することのよこびを感じられるようにしたい。講義では、教職の全体像をつかみ、その専門性について具体的に学び理解すると共に、養護教諭として全人教育に携わるという教職について、学生相互の意見交換を通しながら自らの考えをより確かにすることを期待する。	
	教育原論(養護教諭)	この授業は、義務教育諸学校を中心とした子どもの教育に関して、義務教育等の教育の営みの歴史、今日の義務教育を中心とした教育制度、並びに教育内容や教育方法等について、基礎的基本的理解を得ることを目的とする。授業は次の四つをめざして進める。第一に、具体的な教育事象を題材に、子どもや教育の現状や課題について関心を持つこと、第二に、教育の歴史について基本的理解を得ること、第三に、教育の機会均等や義務教育の理念、学習指導要領等の検討を通して、教育の理念や目的、および制度について基礎的基本的理解を得ること、そして第四に、学校教育が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる機能について考えること。	
	教育心理学(養護教諭)	人間の行動や心理の特性について学んだ上で、小学校以上の学校教育場面における児童・生徒の多様な活動をふりかえり、それぞれの場面での児童・生徒の行動や心理の特性を理解し対応するためのスキルを学ぶ。本授業においては、児童期から思春期を中心として、こころや知性の発達、学習過程、欲求や感情、人間関係などを主な内容として取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 教 育 科 目 教 職 関 連 科 目	教育行政学(養護教諭)	幼稚園、保育園、小学校、中学校など、教育をおこなう「場」は多くあるが、これらの「場」は、制度としてどのように設計され運用されているだろうか。また、設計や運用の背景にどのような理念や方針が含まれているだろうか。さらに、運用の過程でどのような課題が表れているだろうか。この授業では、特に義務教育諸学校を対象にして、教育を支える制度、行政、法律の仕組みについて学ぶとともに、現代の教育改革について理解を深めることを目的とする。	
	教育課程論	教育課程は教育活動の基盤であり、教育目標を達成するために幼児・児童・生徒の心身の発達に応じて組織した教育計画である。本講義では、教育活動の基本である教育課程の意義や編成上の留意点などについて概説すると共に、学習指導の内容や方法をはじめとして幼児・児童・生徒の発達の実態や教育課程改善の基本的考え方などについて実例を通しながら考察し理解を深めることを目的とする。聴くだけの講義ではなく、意見を相互に発表したり、作業を通して具体的に理解を深めることができるような方法を採用入れる。	
	教科外教育の研究	この科目は小学校・中学校・高等学校および特殊教育諸学校の養護教諭の2種免許取得の必修科目として開講されている。学校教育におけるカリキュラム編成と運用について理解を深め、「道徳」と「特活」と「総合的な学習」「外国語活動」の4つの領域を中心に目的論・方法論・教師論・学校論におよび広く講義する。学習指導要領の理解を深め、学校現場での教育経営の現状と今日的な諸問題を考察する。生涯学習体系の下での教育内容の在り方を吟味し、学校の在り方、とりわけ保健室経営の在り方、更に潜在カリキュラムとして考察する。	
	教育方法学	この授業では児童生徒の学習と生活指導全般を取扱い、保健指導や保健室経営の基本にもふれながら、教育技術の面に実技・実習・演習を加味する。また、視聴覚機器(OHP・VTR・OHC・ビデオプロジェクター・スライド・実物投影機・実物提示装置等)や情報機器(ワードプロセッサ・パーソナルコンピュータ等)の取扱いと運用を踏まえ、学習環境や学習心理について、具体的な測定・検査をまじえて考察する。多様な児童生徒に個性豊かに対応する工夫として、児童生徒理解の方法を、わかりやすく親しめるように実習や視聴覚メディアを多角的に利用して分かりやすく解説する。	
	生徒・進路指導論	いじめや不登校等、教育と子どもをめぐる様々な問題が伝えられるなか、今日の教育においては、一人ひとりの子どもの心や成長に関する知識とともに、友人関係、学級集団等、他者や集団とのかかわりのなかでの子どもの心の動きについて理解し、個別的な援助を行っていくことが求められています。この講義では、心理学の知見を中心に、生徒・児童の友人関係、教師・生徒の関係、集団としての学級運営のあり方等、学校という教育場面で必要となる知識を身につけるとともに、生徒・進路指導を行う際に重要となるカウンセリングの基礎的技術の習得を目指します。	
	教育相談論	この講義では、教育相談の考え方やカウンセリングを生かした生徒への援助について学ぶ。教師によって行われる子どもの心理的問題への対応や成長を目指した関わり方について、児童期の教育相談においてよく挙がるトピックを中心に考える。また子どもへの援助に保護者との連携や関係作りは欠かすことができない。その重要性を学び、子どもの成長のためのよりよい連携を保護者や関係者、関係機関との間に作る方法について具体的事例を通じて学んでいくことも目的とする。	
	教職実践演習(養護教諭)	健康支援領域を中心に学んだ学生を対象として、教職の意義、教育の基礎理論、教育課程および指導法、児童・生徒指導等に関する知識・技能と教育実習等で得られた教科指導力や児童・生徒指導力等実践力との更なる統合を図り、子ども理解や教師の役割機能に対する理解を基盤とした確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその定着を目的とする。主な授業の形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(子ども健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 教 育 科 目	教 職 関 連 科 目	事前事後指導(養護教諭)	「事前事後指導」は、「養護実習」をより効果的で有意義なものにするための事前指導、および、体験を振り返りながら自らを評価しその後の学習にフィードバックしていく事後指導からなる。相互の体験交流と自己評価を通じて更なる課題の発見とこれに対する取り組みを行う。
		養護実習	小学校における 3 週間の教育実習である。教育実習は大学で修得した教育・養護教育に関する理論・実技等を、教育現場での直接体験を通して深化・発展させることにより、養護教諭として必要な資質を身に付けることができる機会である。広い視野に立って児童生徒にとって意味のある学校保健を展開するために、まず、学校教育全般について見る事が重要である。養護教諭の職務について具体的に学ぶことが養護実習の主たる目的である。これらを通じ、それぞれの養護教諭像の確立を目指す。